

| 2023年度 和泉短期大学 シラバス【専攻科】 | | | | |
|-------------------------|--|---|----------------------------|-----------|
| 授業科目名 | コミュニケーション技術の応用 | | 教員氏名 | 齋藤香織 |
| 科目ナンバー | Ⅲ-6-1-6 | | | |
| 学年 | 専攻科 | | 開講学期 | 後期 |
| 授業形態 | 演習 | | 単位数 | 1単位 |
| 必修・選択 | 専攻科 | | 実務経験 | 介護福祉士 11年 |
| テーマ | 障害の特性に応じたコミュニケーション、介護におけるチームのコミュニケーションを学ぶ | | | |
| ディプロマポリシー | 1.保育・福祉に関する基礎的な学修を通して、幅広い教養を身に付け、多様な人々を支える社会の理念・仕組みについての原理を理解している。 | | | ○ |
| | 2.保育・福祉の専門的な知識・技能を修得し、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力を身に付けている。 | | | ○ |
| | 3.保育・福祉の専門職として多世代にわたる人々の権利を護り、愛と奉仕の精神を実践できる。 | | | |
| カリキュラムポリシー | 科目群Ⅰ 教養 | キリスト教の精神を踏まえて、人々の権利を護り共に生きる人としての価値観を再構築する | | |
| | 科目群Ⅱ 原理 | 多様な人々を支える社会の理念・仕組みについての学びを通して、愛と奉仕を実践する人間観を養う | | |
| | 科目群Ⅲ 知識・技能 | 高齢者と高齢者を取り巻く環境を知り、様々な介護の内容と方法に関する専門的な知識と技能を身につける | | ○ |
| | 科目群Ⅳ 実践 | 学んだ価値観・知識・技能を現場に即して実践し、共に成長する体験を積みながらキャリア形成の基礎を培う | | |
| 授業の概要 | コミュニケーション障害について理解し、各障害に対応したコミュニケーションの工夫を学ぶ。介護福祉士として高齢者施設の現場で出会った実際の利用者の事例を紹介し、理解につなげる。また、介護現場はチームケアの為、チームにおけるコミュニケーションや記録の意義・方法、情報の扱い・管理についても理解を深める。さらに、チームの運営や人材育成・管理についても学ぶ。介護福祉士国家試験対策は講義内で行っていく。 | | | |
| 授業の到達目標 | 1 障害の特性に応じたコミュニケーションの実際を区別できる | | | |
| | 2 チームにおけるコミュニケーションの実際と、記録・情報の取り扱い方を説明できる | | | |
| | 3 チームマネジメントの概要を理解し、介護実践においてチーム運営の必要性を説明できる | | | |
| テキスト | 「5コミュニケーション技術」 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 | | | |
| 参考書 | なし | | | |
| ポートフォリオ | | | | |
| 往還型授業 (双方向授業) | 授業内での疑問や、学びを進める中で生じた不明点を、対話を通じて授業内で明確にする | | | ○ |
| | リアクションペーパーを用いて授業内での疑問等を対話形式にて対応する | | | ○ |
| | リアクションペーパーの内容やテーマをICTを用いて授業内で受講者全員に公開・共有し、往還的理解を深める | | | |
| | ICT(Googleクラスルーム含む)を活用した課題提示・回収、アンケート等を実施する | | | |
| | その他: | | | |
| 成績評価方法 | 区分 | 割合(%) | 内容 | |
| | 定期試験 | 0 | 実施しない | |
| | 授業内課題 参加度 出席態度等 | 100 | まとめテスト60%、課題提出30%、授業内態度10% | |
| | その他 | | | |

授業概要と課題

| | | | |
|-----|-----------|--|-----|
| 第1回 | テーマ 内容 | コミュニケーション障害の理解と対応の基本を理解する | |
| | 授業外学習 | 〈復習〉DVDの感想レポート | 55分 |
| 第2回 | テーマ 内容 | 認知症のある人へのコミュニケーションの支援を理解する | |
| | 授業外指示 | 〈予習〉認知症の種類と症状(アルツハイマー、脳血管、レビー小体等)について下調べしておく | 55分 |
| 第3回 | テーマ 内容 | 精神障害(気分障害・統合失調症)のある人へのコミュニケーションの支援を理解する | |
| | 授業外指示 | 〈予習〉統合失調症の症状(陽性症状、陰性症状)について下調べしておく | 55分 |
| 第4回 | テーマ 内容 | 知的障害・発達障害のある人へのコミュニケーションの支援を理解する | |
| | 授業外指示 | 〈予習〉知的障害の定義、発達障害の種類と症状(ASD、ADHD、LD)について下調べしておく | 55分 |
| 第5回 | テーマ 内容 | 失語症・高次脳機能障害のある人へのコミュニケーションの支援を理解する | |
| | 授業外指示 | 〈課題〉失語症のコミュニケーションノートを作成する | 55分 |
| 第6回 | テーマ 内容 | 視覚障害のある人へのコミュニケーションの支援を理解する 点字体験 | |
| | 授業外指示 | 〈課題〉点字一覧表を用いて墨点字を読む | 55分 |
| 第7回 | テーマ 内容 | 視覚障害のある人へ同行援護の方法 ガイドヘルプ体験 | |
| | 授業外指示 | 〈復習〉同行援護体験レポート | 55分 |
| 第8回 | テーマ 内容 | 聴覚障害のある人へのコミュニケーションの支援を理解する | |
| | 授業外指示 | 〈予習〉実習Ⅱに向けてコミュニケーションの基本から総ざらいしておくこと | 55分 |
| 第9回 | テーマ 内容 | チームにおけるコミュニケーションの意義・目的を理解する(報告・連絡・相談) | |
| | 授業外指示 | 〈課題〉実習Ⅱにおいて、介護職員のほう・れん・そうの様子を観察しレポートにまとめる | 55分 |

| | | | |
|------|-----------|---|-----|
| 第10回 | テーマ 内容 | 介護現場の記録の目的や種類を理解し、状況に応じた記録を書く | |
| | 授業外指示 | 〈復習〉教科書P207～227を確認しておく | 55分 |
| 第11回 | テーマ 内容 | 会議・議事進行・プレゼンテーションの工夫 | |
| | 授業外指示 | 〈課題〉実習で見学した会議の様子を介護職の発言を中心にまとめる | 55分 |
| 第12回 | テーマ 内容 | 事例検討を行う意義・目的・情報の活用と管理の技術・個人情報保護について理解する | |
| | 授業外指示 | 〈予習〉高齢者施設、障害者施設の情報発信の実際を実習Ⅱの施設で確認しておく | 55分 |
| 第13回 | テーマ 内容 | 期末試験に向けた総まとめ | |
| | 授業外指示 | 〈予習〉これまでの12回分の学習内容を、キーワードを確認しておく | 55分 |

課題に対するフィードバックの方法

第5回、第6回に出された課題は10点満点、第9回、第11回に出された課題は5点満点にて評価後、授業内にて共有し返却する。質問は授業時間内、又は次回授業時に回答する。